

令和4年度 第1回 守山市人権尊重のまちづくり推進協議会 会議録

日 時 令和4年7月29日（金） 午前10時00分から午前11時50分まで

場 所 守山市役所 東棟3階大会議室

出席委員 今井委員、杉江委員、樽井委員、芝委員、澤田委員、田中(ひ)委員、石田委員、井口委員、大谷委員、太田委員、美濃部委員、以上11名

事務局 大隅課長、徳田係長、竹中事務員、小濱主事
(関係課職員) 美濃部地域総合センター所長、吉田学校教育課指導主事

会議内容

1 開 会

2 あいさつ

3 案 件

(1) 第4次守山市人権尊重のまちづくり総合推進計画における施策事業の取組状況について 資料 1

(2) 令和3年度自治会人権・同和問題学習会の実施状況について 資料 2

4 閉 会

議事録

発言者	議事内容
会長	<p>1. 開 会</p> <p>2. あいさつ</p> <p>3. 案件</p> <p>(1) 第4次守山市人権尊重のまちづくり総合推進計画における施策事業の取組状況について<事務局概要説明></p> <p>本協議会に与えられている様々な課題について、皆様の貴重なご意見をいただきながら進めてまいりたいと思っておりますので、ご協力よろしく申し上げます。</p> <p>一項目ずつ、ご意見を賜りながら、進めていきたいと思っております。ではまず、同和問題についていかがでしょうか。</p>
委員	<p>共通の資料を通じて人権研修をすることは、すごく大事なことだと思う。</p> <p>守山市内の学校の先生との打合せの中で出たのが、教職員の入れ</p>

	<p>替わりや若い先生方が現場で活躍するようになってきた一方で、同和問題を学校で習ってきていない先生方が増えてきているという現状について。先生方と話していると、当然知っておられるであろうということが、そこを学んできていないというところがあった。</p> <p>同和問題を学ぶことは、非常に大事なことだと思いますので、学校教育課でどのような資料を使っているのか教えてもらいたい。</p> <p>部落差別が、今の社会の中で、どんな形で表れているのか、つかめていない現実がある。例えば、草津市内の意識調査で、結婚に関わるアンケートをした際の、被差別部落の方との結婚を反対する意見が少なくなってきたという成果を見ると、今後、そう力を入れなくてもいいと捉えてしまうきらいがある。</p> <p>結婚差別について、内実を見てみると、「結婚には反対しなかったけれど、相手の親が、部落外で住むなら了承する。」「部落であるということを口外しないでくれたら了承する。」という現実がある。本来であれば、祝福されて結婚をするところ、そういう現実があるということを教職員も捉えていかないと、見えてこないのではないか。共通の資料とともに、差別の現実を、どういう風に捉えていくかということ、作っていかないといけないと思う。</p>
事務局	<p>令和3年度は、「部落差別」をテーマに学習資料を作りました。</p> <p>4月当初にリーダー研修会という形で、各校園の人権研修の先生方を対象に、学校教育課より説明し、学んでもらって、各先生方から学校へ下していただいています。</p> <p>若手教員の方たちは、同和問題の学習機会が少ないということもあるので、研修では、色々な年代の先生方との意見交換を通してともに学びあっていく形をとっています。また今年度は、『マイクロアグレッション（微細な攻撃）』について資料を作成しました。</p> <p>結婚差別につきましても、公民の教科書にも載っていますが、高知県の啓発ポスターに、女性の方が載っていて、結婚を決めたときに、家族が「どこの人？」と言った。という内容が載っていますが、このようなことが差別につながるかもという事を、この夏、研修してもらっています。研修後、新たな考えが生まれたというご意見も聞いているので、今後も継続して、考えていければと考えています。</p>
会長	<p>各市で、同和問題に関する資料が作られているので、今後、連携していければ良いのでは。草津市でも、同和教育の教材が作られています。</p> <p>全人協・滋賀県同和教育研究大会では、主テーマが、「差別の現実」に深く学ぶです。このテーマが、単にスローガンということではなく、差別の現実を学ぶということ、職員に丁寧に話してもらえたらと思います。</p> <p>守山市の意識調査の中でも、同じような傾向がでていていると思いま</p>

委員	<p>す。寝た子を起こすな。という考え方や、分かっているけど実際には。など。引き続き、きっちり勉強していくようにしたいですね。</p> <p>知識として豊かであることと、心にきちんとあることとは別なんだなと痛感することがあります。学校教育の中でも、啓発の中でも、いろんな知識を伝えるのは大事だが、子どもに、「どんな気持ちだったんだろうね？」と、最後にひと言聞くなど、胸の中に落としていくようなことが大事だと思います。</p>
会長	<p>同和問題は、以上でよろしいですか？続きまして、女性の人権についてはいかがですか。</p> <p>人権政策課にお聞きしたいが、女性の人権ホットラインについて、人権擁護委員さんがされていると思いますが、具体的な取組みとして記載されていないのはなぜですか？</p>
事務局	<p>今までは、人権擁護委員さんの中での取組みという捉え方をしておりました。女性に対する暴力をなくす運動があり、人権擁護委員さんも、同じ目的で取組みをされているので、今後は掲載します。</p>
委員	<p>人権擁護委員の取組みとして、人権ホットラインがあって、DV問題、他者の痛みなどへの相談に答えています。</p> <p>守山では、人権相談をエルセンターで受けていますが、人権相談の数も、女性からの相談が多い。今後もしっかりと対応していく必要があります。</p>
会長	<p>その他、ご意見をいただけますか。</p>
委員	<p>資料に書いてあるように、固定的な性別役割分担の解消も大事だが、具体的な数字をもとに考えていくのも大事だと思っています。</p> <p>就学前の保護者に考えてもらうということで、ワコールでは、小学校4年生(10歳)のキラキラ文書というものを毎年出しておられる。その中で、「料理は、女子が男子より上手にできたほうがいいですか？」という問いに、何人くらい「はい」と答えているか、予想してもらって考えてもらうという問題を作りました。</p> <p>2019年に85人が「はい」と答えており、その時に話を聞いたお父さんは、この数字に対して「想像の範囲内です。」と言われました。自分のところの家庭の役割分担を見て、想像の範囲内と言われたと思いますが、一方、お母さんは、「それはおかしいと思います。」と言われました。これは、家庭の中での役割分担に偏りがあるからだと思っています。</p> <p>わが子が、そういう考えでいたとしたら、持っている能力に関わらず、場合によっては女性だったら、それが発揮できないまま今後</p>

<p>会長</p>	<p>の人生を歩んでいくことになるのではないかということをお考えしました。役割分担の解消について、具体的な数字、賃金格差、子育てに最低限どのくらい時間がかかるのか、考えていくことも大事なことなのではないかと思えます。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、子どもの人権についていかがでしょうか。</p> <p>昨今、ヤングケアラーなど、子どもの人権問題を重ね合わせていくことも大事だと思います。校長先生のご経験の中で、成果があれば教えて下さい。</p>
<p>委員</p>	<p>ここ10年20年で、いじめの捉まえ方は、随分と変わってきています。いじめの件数も、昔は発生件数で、私が生徒指導を担当していた時は0件とか1件だったものが、今は、認知件数なので、0件ということはありません。</p> <p>増えているからと言って、子どもたちが荒れているとか、学校でうまくいっていないのではなく、それだけアンテナを高くしているということです。社会通念上のいじめと、報告するいじめは全然違います。そんなことが？ということが、法律だといじめになることもあります。</p> <p>ある子どもが、前の晩、遅くまでゲームをしていたため、授業中に寝ていたら、先生が、問題を子どもに順番に当てていき、寝ている子どもに当たる時に、隣の席の子どもが起こしてあげたが、その子どもが起こされたことを不快に思うと、法律によるいじめになったりすることもあります。社会通念上、え？ということも入ったりします。</p> <p>教師も研修をし、アンテナを高くして、子どものことを注意深く見るようにしています。</p> <p>正直、経験がものをいうところもあり、隣のクラスの教員が気づくこともあります。今は、小学校でも、自分のクラスだけではなく、複数の教員で子供たちを見るようにして情報交換をしています。いじめに対して、敏感にかつ深くなってきているということと、複数の教員で見ているということが、成果として出ている要因だと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>子どもの登校のときに、子どもたちの顔を見て挨拶をするが、子どもたちから挨拶が帰ってこなかった。ということをよく聞きます。でも、そういうところにポイントをおくのではなく、私たちは見守っていますよ。ということをお伝えたいなと思っています。</p> <p>大人の声掛けひとつで、子供の顔つきが変わることがあります。子どもは、頼りにする大人がいてこそ自分が生きていられると思うので、子どもたちがキラキラ輝いていられるような行動ができるよ</p>

<p>会長</p>	<p>うになりたいと思います。大人も勉強が大事。子どもたちが、ワクワクする機会を設けて、自分たちはキラキラいろいろ考えながら生きていたらいいんだよ、ということをお教えていきたいです。</p> <p>ありがとうございます。 障害者の人権について、いかがですか。</p>
<p>委員</p>	<p>車椅子やいろんな障害の方がおられると思うが、私たちの団体でも、親睦会などの時に、車椅子で行けるお店が少ないという声をよく聞きます。今は、飲食関係は厳しい状況だと思いますが、ユニバーサルデザインや、合理的な配慮にも費用がかかると思うので、時間が止まっているような状態だと思います。</p> <p>新築される場合は、障害者の方のことを考えて建てられることも多いかと思いますが、そうでない場合もあると思いますので、車椅子の方も行きやすいように、何とか考えていってほしいと思っています。</p>
<p>会長</p>	<p>市からバリアフリーなどの働きかけはしているのですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>障害福祉課の方でも、いろんな取組みをしていると思いますが、ご意見があったことや取組みについて情報共有をし、啓発につなげていけたらなと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>守山駅には、車いす用のエレベーターがあるが、不足している部分があると思うので、勉強していかないといけないと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>障害のあるお子さんの場合、「障害者の人権」の中に入っていると理解しているのか、「子どもの人権」の中で捉まえていくといいのか、インクルーシブ教育とよく言われる。障害のお子さんもお子さんとともに過ごしていく場合、どうゆうふうで理解していくとよいでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>障害を持っている子供たちに対しての人権もありますし、どちらかだけというよりは、子どもの人権の中でも配慮していくこともありますし、障害者としての人権の中で配慮していく部分もあります。両方がかかっていくというような捉え方になると思います。</p>
<p>会長</p>	<p>「子どもの人権」の取組にも入れてもらおうと、参考になって良いと思います。続きまして、高齢者の人権についていかがですか。</p>
<p>委員</p>	<p>モーリーカーは、市の施策として始めてもらって、近くの方はあまり利用ないかもしれないが、琵琶湖方面の方は便利である。我々</p>

	<p>も推進している。老人クラブが70件ぐらいあるが、準会員と言って、各町内に老人クラブがあるが、なかなか活動できていない。</p> <p>ただ、若い方でも準会員さんで入ってもらい、その場合は、老人クラブの方には優遇待遇でモーリーカーを利用してもらえる。施設に行く場合など、優遇的にしてもらってありがたい。</p> <p>野洲守山交通安全協会、老人に対する安全、タクシーの方からも応援していただいて感謝している。</p>
委員	<p>老人クラブさんにはご協力をいただいております。これから先、高齢者が増え、通勤で使う方が多い道路の整備もお願いしたいですね。段差があるところもありますので。</p> <p>モーリーカーのことを知っているが、利用の仕方が分からないという方がたくさんおられるように思います。自分の都合のいいように使おうとされている方は別として、高齢者の方が、利用しやすいような守山市のまちづくり、道路づくりをしてほしいです。</p>
会長	<p>単身者の見守りや高齢者の見守りの部分で関わりがあるんですね。</p>
委員	<p>守山市は、若い方が入ってきていて、人口が増えていますが、その中で単身者や、地域によっては50パーセントが高齢者の方になっています。民生委員が、一人暮らしの方々について、それぞれ把握をして、高齢者の見守りをしています。見張りではなく、見守り。要支援者が、見守りカードがあるので、整合しながら、多くの方をきちんと見守っていかうとしています。</p> <p>その中で、認知症のことに対して、元気な方々からは、なかなか理解が得られなくて、ゴミ出しの時間を間違っている等普通に会話にあがってきます。ご本人は一生懸命されているので、認知症のサポートを身近なこととして、やっていけたらいいなと思います。これからの民生委員としては、みんなが気持ち良く、今住んでいるところで生活ができるようにしていくことが大事だと思います。</p>
会長	<p>社会福祉協議会、自治会と連携していきながらお願いしたいです。では、次に外国人の人権についていかがですか。</p>
委員	<p>いろんな国の方がおられますが、私の知り合いにミャンマーの方がおられます。ミャンマーのいいところ、素晴らしいところを教えてくださいと聞いたら、「ないです。自慢するところがない。」と言われる。いろんな環境、いろんな国の方がおられるときに、その人たち個人個人を認めていかないと、難しい問題が起きてくるのではないかと思います。日本語はみなさん勉強してこられているので、言葉使いに問題はありません。</p>

会長	資料なんかを図書館に置いておられますよね。
事務局	『耳たろう』です。
会長	市民の学びの場である、図書館や地域総合センターに置いていただくのは良いと思います。 では、次に患者の人権についていかがですか。
会長	無いようなので、次に、性的指向・性自認等について 人権擁護委員協議会の中に、人権相談委員会がありまして、その中で課題にとりあげている一つに、LGBTQの方々に対する人権をどのように取り組んでいくか、人権相談を受けたときに、どのように答えていくかを考えていく場があります。皆さんは、いろんなところで、市の方でも、男子、女子に○をつけることがあると思います。不在者投票の時も、あなたは男子ですか？女子ですか？と○をつけないといけない。あえてそれが必要なのか。ということをお問われています。男子、女子の○の必要性があるのか。このことについては、ニュースでも、敢えてそのことを聞く必要があるのか？と問われていますが、市町によって情報が違います。その時に聞かれて、データとして知っているから、本年はこういう形でしているが、これからは検討も含めながら対応していきたいと答えていました。こういう風に、性的指向・性自認等の方は、○がうちにくい。○をうっていいのか？どうしたらいいんだろうか。 千春という名前だとします。その時に、千春さんは女性の方ですか？と言われる。昨今、非常によく問われている問題だと思います。
委員	高校生が、就職をするときに書く履歴書の性別欄が、昨年なくなりました。それを、草津市の広報では、なぜなくなったのかを周知していき、研修の材料にしていくとしています。 今まで当たり前になっていたことが、当たり前を問うという機会がいくつも出てきています。当たり前を通して、システムや制度が変わっていくことによって、誰もが、生きやすい社会になっていくとことを市民の皆さんと共に考えていくことが、大事だと草津市では考えています。
会長	ありがとうございます。 では、次にインターネット人権についていかがですか。
委員	インターネットでいうと、即座に世界中とつながれるという過去になかったこの使い勝手のいい道具が急速に普及して、人間の意識

	<p>を超えて使いこなす前に進歩してしまって、さまざまな問題が起こっている。</p> <p>施策にある通り、知識を得るところから始めてするしかない。</p> <p>大学では、学生向けにインターネットリテラシー講座を入学時にしている。ある程度の効果はあると思う。わかっている、人とつながりたいという心理的な思いがある。説明を聞いていても心の方がついていけないが、長期的な課題だけれど、一気に解決は難しいので、一つひとつねばり強く何度も繰り返して、事例をあげながら、様々な角度から教育していくしかない。</p> <p>全体を通して、すべての根本にあるのは、基本的人権として、人権って生まれながらにして、誰もが分け隔てなくもっているもの。このことが、かえって理解しにくい。社会の権利は、責任や義務を果たせば理解しやすい。ギブ・アンド・テイクで。基本的人権はどの人でも平等に生まれながらにある。</p> <p>人は生まれながらにして、健康で文化的な生活を営む権利がある。言葉にするとシンプルだけれど、これを心に染み込ませるのは大変。知識として知っていることと心で理解することの隔たりがあるので、啓発を自治会レベルで丁寧に市はやっておられるので、これをそのまま繰り返して行って、一気に変わらないけれど、繰り返し繰り返し学んでいくことが大事だと思う。</p>
会長	<p>皆さん方と一緒に政策事業について意見を賜ったが、また各課の方にお返ししていただく形をお願いしたい。</p>
	<p>(2) 令和3年度自治会人権・同和問題学習会の実施結果について<事務局概要説明></p>
会長	<p>コロナ禍で、学習会そのものが、集まってするのが難しいと思うが、何回もくりかえしすることが大事だとされているが、どのようにされているか？</p>
事務局	<p>一度に開催すると、人数が多くなって、感染のリスクが高まるので、各自治会に班があるので、班分けしたりして、同じ内容を研修してもらったり、班の代表の方に来ていただいて、その方から話をおろしてもらって、密を避ける形でやっている例もある。</p>
委員	<p>守山市の取組みはとても素敵だと思っている。啓発講師団も活用しながら、充実した懇談会・学習会をしているのが良いと思う。</p> <p>草津は、これまでの取組みや取組みの準備が守山と違うところがあって、町内の推進委員や学区の同推協委員が第一講座・第二講座を終えて、各講座に繋げていくという形でやっている。第一講座・第二講座は、市全体の事前研修講座という位置づけである。</p>

	<p>第一講座は、今年、市内に住む25歳の方に話してもらったらそれを聞いた参加者が、彼女の話に心を動かされた。という感想が多かった。行政の協力者も心を動かされた。彼女は、「小さいときから、自分は被差別部落に住んでいて、今25歳。周りの偏見によって、今でも自分の出身地を言うのにとまどっている。今まで25年生きてきて、何も悪いことはしていないのに周りの心ない発言で、こんなに苦しめないといけないのか。」と話された。また最後に彼女は、「よく知らないにも関わらず、あの地域はこうだからという形で、決めつけた見方をしていることがないかと、考えたい。自分の仕事に関しても、デイサービスで障害を持っている子と出会うと、障害を持っている子のことを違う目で見ている、何日か関わることによって、その子の本当の姿が見えてきた。という事があった。」と。</p> <p>これは大事な話し合いのポイントだと思う。</p> <p>第二講座は、外部講師であったが、現在の部落差別は、こんな意識に集約されているという紹介してもらった話であった。</p> <p>一つ目は、差別される側にも責任があるのではという意識がまだあるのではという自己責任という見方。</p> <p>二つ目は、同和地区だけずるいという意見。</p> <p>三つ目は、「黙れ」という言い方に代表されるように、教えるから差別がなくなるといいう考え方。権利を主張する時に周りが否定してしまう。「こわい。ずるい。黙れ」に、今の部落差別が顕著に表れているのではないかと。というお話だった。</p>
<p>会長</p>	<p>この部分を整理解決していかないと、それぞれの学習会の中で、学んでいく条件整備ができないのではないかと考えます。そのような講座に参加された、草津市内のある学区の同推協の方が、確かに、今まで、そういうことを立ち止まって考えたことがなかった。</p> <p>それぞれの学区での、事前研修講座、第三講座で、一度、今年は同和問題にしっかりと軸足を置いて、基本的なことを学びたいので、誰かいい講師の先生を頼んでほしいと依頼があった。</p> <p>そこの地域は、新興住宅がほとんどを占める学区で、今まで部落問題と自分の生活は遠い、関係がないという考え方が多かったが、一度、立ち止まって、今年は、同和問題に焦点をあてて、それぞれの自治会で取り組まれている、取組のポイントの中に、改めて何を学習していかないといけないのか、整理解決していかないといけないポイントは何なのかということを考えていかないといけないと思うし、草津市以外でもやっていかないと、効果的な学習になっていかないとはいかないのかと、事前研修講座をしていて思う。</p>
<p>会長</p>	<p>それぞれの市で実施されていることを紹介してもらいました。手法等は異なりますが、市民の方に向けて、正しく理解していただきながら進めていくということは同じだと思います。</p>

	<p>本日はありがとうございました。</p> <p>4. 開 会</p>
--	--------------------------------------